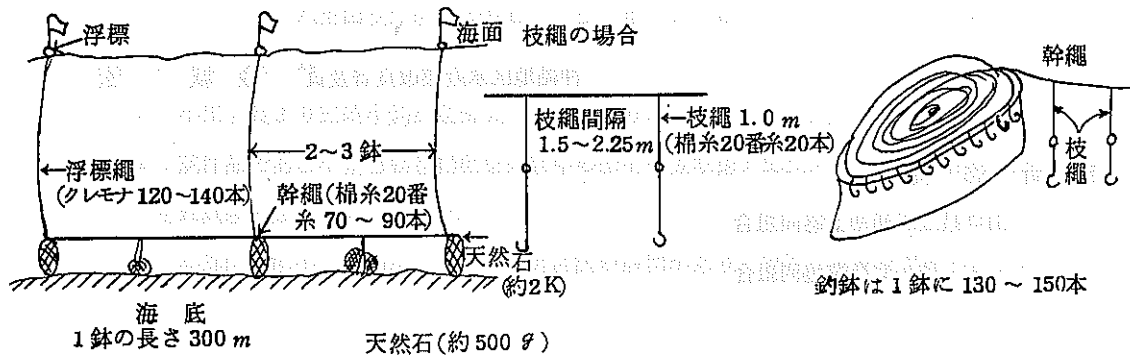
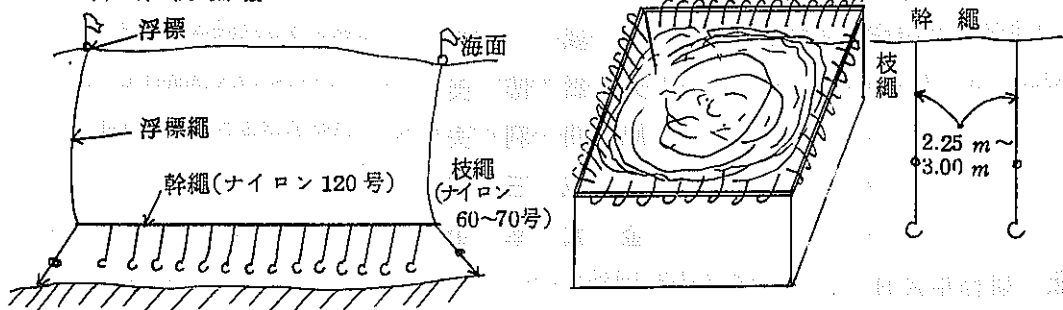


(1) 漁具の構造

(イ) 萩市玉江浦、越ヶ浜漁協 (アマダイ、キダイを対象とした漁具)



(ロ) 糸満漁協



(2) 漁具の特徴

山口県の漁具は幹繩、枝繩は綿糸であることから延繩用揚繩機についているローラーとの密着がよく揚繩が容易である。魚種も沖縄沿海で釣獲される魚種と比して小魚であることから釣針も3分の1程度で簡易な漁具である。沖縄の場合沿海のマチ類、クチビダイ、ハタ類を対象に釣獲するのでテグスも太く枝繩は萩市漁協の3倍の大きさである。

漁具の構成には極端な差異はないが、ただサンゴ礁地帯魚と支那海砂泥魚を釣獲することから綿糸とナイロンテグスとの相違である。

省力機器

本県における底延繩漁業は1~2トン未満のくり舟及び和船型を始め5~10トン未満まで揚繩は依然として手繰操作を繰返している実情である。

糸満漁協で使用される底延繩は普通1鉢(100.0m、釣針200本)約40~50分も揚繩に時間を要し、2鉢分で交互に操作されている。玉江浦漁船の底延繩用揚繩機を実際に乗船し操作したところ、1鉢(300m)6分で揚繩されることがわかった。

今回は揚機を中心に漁具漁法、船型を対象とした機器の省力化等を本県の地域性を活かしたなかに、導入改良しモデルグループとして育成しそれらの改善をはかりたい。